
龍の煌き

四季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍の煌き

【Nコード】

N1613Z

【作者名】

四季

【あらすじ】

「20XX年————世界は急激に変化していた。」

超能力者や異能力者、無能力者で分けられ差別される世界。

そんな世界の中で生きる少年——獅子裂零禍。

彼は一体、どのように生き、どのようにして戦っていくのか……

……！

プロローグ

20XX年———世界は急激に変化していた。

世界は三つの勢力に分割され、

EUとロシア、アジアは解体され、EUと西ロシア、西アジアの連
合国家『NEU』。

余った東ロシアと中国、アメリカによる連合国家『大アメリカ帝国』
。

そして、それ以外の『中立国』である。

そして、人類にも変化が訪れた。

世界で超能力や異能力とよばれるものが見つかったのである。

世界は大幅に変わった。

無能力者と能力者は差別され、能力者ばかりが優遇されていた。

―ちなみに僕は無能力者である。

何のとりえもないような、ね。

「はあ……」

言い忘れていたね。僕の名前は獅子裂零禍。

私立学校に通っている中学2年だ。

僕が通っている【私立四神学園（しりつししがくえん）】は

龍乃碕市にある大規模な学校で、

中等部と高等部があり、全寮制だ。

校舎は主に、中央、西側、東側、南側、北側があり、

中央には大型の体育館アリーナや職員室、それ以外のところが教室や、部室であるという構成であり、なかなか面白かったりする。

外には校庭と寮があり、その更に外側には大きな壁に覆われている。何故かって？まあ、気にするな。

出口は正面と裏の二つだけで、基本的に玄関はすべての校舎（中央を除く）にあり、どこからでも入れる。

それでいて能力者でも無能力者でも通える特殊な学校なんだ。

私立の試験校だから学費とかも意外と安いしね。

季節は春。

気持ちのよい風が僕の体を包む。

「ふわあゝ」

ついつい欠伸が出てしまうのも仕方はない。

―本当に気持ちのいい朝だな。

そう思いながら、歩いていたとき、不意に誰かと激突してしまった。
ターニングポイント
思えば、これが一種の運命の分岐点だったのかも知れない。

ドン！

「きゃ！」

「うおっと！」

刹那。

僕は彼女が倒れないようにその手をつかんだ。

―よかった……。ビックリしてはいるけど怪我はないみたいだ……。

「ゴ、ゴメン！前見てなかったから」

「い、いえ！私も気づいていませんでしたし……」

ぶつかってしまった彼女に侘びを入れて、今度こそしっかりと立たせた。

「大丈夫だった？」

「え？うん」

―ヤバイ、早く行かないとクラス表見れないぞ。

「ゴメン！これから用事があるんだ！それじゃ！」

僕はそう言って走る。

目指すは学校の玄関である。

―この時間ならもう張ってあるだろう。

僕は急いで向かった。

この時、後から起こる不可思議な出来事を、僕はまだ知らなかった。

第一話

夢を・・・見ていた。
とてもありえない夢。

僕が剣？銃？弓？槍？鎚？をもって戦っている夢。
僕が相対しているナニカ。

何故か僕には、僕がそのナニカと同じように見えてしまっていた。

そう、それではまるで――――



「・・・ハッ！」

朝、5時。寮の部屋で僕は目が覚めた。

さっきまで見ていた夢の中身はおぼろげにしか覚えていない。

あまり気にすることではないだろう、そう思い顔を洗いに洗面所へ向かった。

ジャーバシャツバシャツキュッ

鏡に写っているのは、少し眠たげだが、整った顔立ち（よくその所為で女に間違われる）に長いクセのないきれいな茶髪（その所為で女に（ry）に少し吊り上った瞳）。

間違いなく僕の顔だ（というか違ったら怖いわ）。

「ふわぁ・・・」

うーむ。まだ眠いな。

でも、今から寝ると確実に遅刻するし…………。

「とりあえず、着替えよ…………」

僕は部屋の壁に掛けてあるシャツと制服に手を伸ばした。

上を脱いでハンガーに掛けた。そしてその上にシャツを着た。

四神学園の制服は白と赤で、カスタマイズ自由である。

僕の制服は、前を空けたまま、コートのように羽織れるように改造している。

「えーっと、後は…………今日は戦闘実技もあるのか…………。じゃあ、銃の整備もしとかないと…………」

戦闘実技、とは四神学園の特別授業に含まれる科目で、能力者は能力の研磨。無能力者は銃火器の使用訓練だ。

僕は無能力者に含まれるので、銃火器の使用訓練である。

僕が好んで使うのは、コルトM1911―通称コルト・ガバメントだ。

一応、威力的に足りない場合もあるので、改造はしてあるが。

あと、もう1丁持っていて、そっちはアサルトライフルであるM4A1とM203A1グレネードランチャーのセットである。

まあ、専用のバックに入れてるが。

カチャカチャ…………

フレームを解体してオーバーホールを済ます。

そして、また組み上げたそれを、コート状になっている制服に掛けた。

アサルトライフルのほうはもう先日済ませてある。

時刻は6…27…丁度いい時間なので朝食を作ることにした。メニューはトーストと目玉焼きにベーコン焼きのシンプル且つオーソドックスなものだ。

ジュース

こういう料理は一人暮らしをすることになってやっている内に覚えた。

まあ、趣味としてやっていたのである程度は出来ていたのだが。

それから数分後、出来上がった料理をテーブルに乗せて、席に座った。

「いただきます」

挨拶をして食べ始める。

…うん、今日もいい出来だ。

ゆっくりとご飯を食べて、時計を見るともう7…00である。

「さて、今日も頑張るか」

そう一言だけ呟いて僕は部屋を出た。

「じゃあ、行ってきます」

ガチャ・・・バタン。

これが、僕の朝の様子である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1613z/>

龍の煌き

2011年12月7日00時46分発行